

平成30年度 第1回 社会教育委員の会議 会議録

- 1 日 時 平成30年8月27日(月) 14:30～16:00
- 2 場 所 南北海道教育センター 1階 大会議室
- 3 内 容  
(1) 正副委員長の選出について  
(2) 平成30年度社会教育事業について
- 4 出席委員 11名 (滝澤委員, 外崎委員, 長谷川委員, 佐竹委員, 佐々木委員, 市田委員, 池田委員, 石崎委員, 竹内委員, 板東委員, 佐藤委員)
- 5 欠席委員 4名 (八田委員, 小池委員, 相原委員, 川口委員)
- 6 事務局出席者 7名 (佐藤生涯学習部次長, 阿部生涯学習文化課長, 大野スポーツ振興課長, 蛭子井文化財課長, 斉藤博物館長, 円山生涯学習文化課主査, 葛西生涯学習文化課主事)

7 発言要旨

円山生涯学習  
文化課主査

本日は、何かとご多用の所、ご参集いただきまして誠にありがとうございます  
ございます。

私、生涯学習文化課の円山と申します。  
どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは定刻になりましたので、只今から  
平成30年度第1回社会教育委員の会議を開会いたします。  
本日の会議は、午後4時頃の終了を予定しております。

本日の会議は、委員改選後、初めての会議となります。  
はじめに、出席されている委員の皆様方をご紹介します

(各委員紹介)

続きまして、教育委員会職員をご紹介します。

(職員紹介)

円山生涯学習  
文化課主査

それでは次に、生涯学習文化課長より一言、ご挨拶申し上げます。

阿部生涯学習  
文化課長

(課長挨拶)

円山生涯学習  
文化課主査

次に社会教育委員の会議について、同じく生涯学習文化課長から説明をいたします。

阿部生涯学習  
文化課長

(資料2に基づき、社会教育委員について説明)

円山生涯学習  
文化課主査

それでは、本日の議題に入らせていただきます。

議事(1)「正副委員長の選出」につきまして、このまま事務局で進行させていただきます。

それでは、早速ですが、「正副委員長の選出」につきましては、函館市社会教育委員の会議規則第2条において、「会議に委員長及び副委員長をそれぞれ1名置き、社会教育委員の互選とする。」と定められておりますが、皆様、いかがいたしますか。

(「事務局一任」の声あり)

ただいま事務局一任という声がありましたので、事務局の方から委員長を推薦させていただき、副委員長については、委員長から推薦していただきたいと思いますが、いかがですか。

(「異議なし」の声あり)

ありがとうございます。

それでは、委員長には学校教育と社会教育共に造詣が深く、様々な活動を行っていらっしゃる、滝澤委員にお願いしたいと思いますが、いかがですか。

(拍手)

ありがとうございます。

委員長は、滝澤委員に決定しましたので、滝澤委員長には正面の席にお移りください。

(滝澤委員長 席移動)

円山生涯学習文化課主査	<p>それでは、滝澤委員長よりご挨拶をいただき議事進行をお願いしたいと思います。</p> <p>滝澤委員長，よろしくお願いいたします。</p>
滝澤委員長	<p>(委員長挨拶)</p> <p>それでは，議事の方に入っていきたいと思います。</p> <p>それでは先ほど，副委員長については委員長の推薦で決めるということでしたので，私の方から副委員長を推薦させていただきたいと思います。</p> <p>前期においても副委員長を務めておられました，北海道教育大学教育学部函館校准教授の外崎委員に，引き続き副委員長をお願いしたいと思いますが，皆様いかがでしょうか。</p>
	<p>(拍手)</p> <p>それでは，副委員長は外崎委員に決定いたします。 申し訳ありません，副委員長席の方へ移動をお願いいたします。</p>
	<p>(副委員長 席移動)</p> <p>ご挨拶をお願いいたします。</p>
外崎委員	<p>(副委員長挨拶)</p>
滝澤委員長	<p>それでは，会議を進めさせていただきたいと思います。</p> <p>報告の(1)「平成30年度社会教育事業」について，事務局より説明願います。</p> <p>各課があるんですけれども，全部ですと大変ですので，生涯学習文化課とスポーツ振興課が進めたあと，質疑応答を設けて，他の文化財課さんなどについては分けて進めていきますのでよろしくお願いいたします。</p>
阿部生涯学習文化課長，大野スポーツ振興課長	<p>(生涯学習文化課，スポーツ振興課の順で各課長が資料に基づき説明)</p>

滝澤委員長

それでは、生涯学習文化課とスポーツ振興課の説明がありましたけれども、ここまでの部分につきまして、質疑応答に入りたいと思います。

ご質問あるいはご意見、ある方いらっしゃいますか。  
いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(質疑なし)

それでは、次は全体の最後になりましたら、ご意見をいただければと思います。

それでは次は文化財課それから博物館、各教育事務所の説明をお願いいたします。

蛭子井文化財課長、斉藤博物館長、阿部生涯学習文化課長

(文化財課、博物館の順で各課長が資料に基づき説明。各教育事務所については、生涯学習文化課長が説明。)

滝澤委員長

それでは、文化財課、博物館それから4つのそれぞれの教育事務所の事業についての説明がありましたが、質疑応答の方に移りたいと思います。

どこからでも構いません。

ご質問ご意見がありましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。

なかなか見ているだけは、これってどうやってるのとか、そういうことでも構いませんので、何かありましたらご意見ご質問いかがでしょうか。

石崎委員

学校開放について、こういう場で話してくださいと言われてたんですが、学校開放の時間の区分が、午前・午後・夜となっていて、継続して使う時に、その間、一旦閉鎖されて、利用者が外に出なければならぬと聞きました。

そうですと、利用者が大変だと思うので、工夫していただきたいと思いますが、どうでしょうか。

滝澤委員長

生涯学習文化課とスポーツ振興課、文化開放とスポーツ開放がありますが、どのような活動ですか。

石崎委員

合唱です。

滝澤委員長

文化課ということですね。  
お願いいたします。

阿部生涯学習  
文化課長

委員のご指摘の通り、現在は土曜日とか日曜日、祝日の日は、午前・午後・夜間という3区分となっております。

管理委託はシルバー人材センターにお願いしており、午前・午後と続けて使う方に関しましても、現在は、午前終了後、退出してもらい、また午後に入校し、利用していただいております。

なお、以前にも同様のご意見もありましたので、検討させていただきたいと思っております。

今後どのくらいの需要があるか調査も必要と思っており、利用される方が使いやすいような形のことを考えてまいりたいと思っております。

滝澤委員長

よろしいでしょうか。

石崎委員

利用者が使いやすいようにしていくのが良いのかなと思います。

滝澤委員長

では、事務局で、検討よろしく申し上げます。  
その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、平成30年度の社会教育事業の概要についての説明はここで終わりにしたいと思います。

なお、スポーツ振興課長、博物館長につきましては、退席されます。どうもありがとうございました。

それでは6番の、その他の方に移りたいと思っております。  
その他ということですが、事務局お願いいたします。

阿部生涯学習  
文化課長

その他が2つございます。まず1点目でございます。

北海道社会教育委員連絡協議会および渡島社会教育連絡協議会への加入について説明させていただきたいと思っております。

(資料2に基づき、北海道社会教育委員連絡協議会および渡島社会教育連絡協議会への加入についてについて説明)

滝澤委員長

ありがとうございました。  
ここまでの事務局からの説明に関して何かございますか。  
よろしいでしょうか。

滝澤委員長

函館市だけではなくて、横のつながりを広げていこうということですね。

今、説明にあったように、私たちが参加しなければならないという場合は、早めにご連絡をいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、2点目について、事務局からお願いします。

阿部生涯学習  
文化課長

それでは、2点目でございます。

先ほど文化財課長からも報告がございました、本市の史跡大船遺跡、史跡垣ノ島遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、7月19日に開催された国の文化審議会世界文化遺産部会において、ユネスコ世界文化遺産の国内推薦候補に選定されました。

今後、正式登録に向けて様々な活動が展開されていくと思いますが、さらに市民がこれらの縄文遺跡群に対する理解を深めることが重要だと思っておりますので、この機会に、社会教育委員の皆様やそれぞれ所属する団体等で、どのような取組みができるかなどについて、皆様にこの場でアイデアなどを出していただきたいと考えております。

また、本日の意見交換の内容について、それぞれの団体で検討していただければと考えておりますので、よろしく願いいたします。

滝澤委員長

それでは、事務局からありましたように、世界文化遺産の国内推薦候補になったということに関して、市民の一人ひとりの認知度を上げるということで意見交換をしていきたいと思っております。

資料もありますので、文化財課長の方から、もう少し具体的に、この前後の取組みについて、経過と登録までの流れについて、説明をお願いいたします。

蛭子井文化財  
課長

資料の4で、皆様のお手元の資料に、「世界遺産登録までの主な流れ(平成30年度の想定)」と書いてございます。

一枚めくっていただきますと、「北海道・北東北の縄文遺跡群」推薦に係る世界遺産登録に係るこれまでの経過が記載されております。

主な流れにつきまして、簡単にご説明いたします。

今年の3月の末に縄文遺跡群ということで推薦書の素案を文化庁に提出しております。それらが審議をされまして、先ほどから出ております7月19日に、部会の方から国に対して縄文遺跡群が適当ではないかという答申がされております。

この後、9月末までにその前に提出しております推薦書の素案を暫

定版ということで、今度は国の名前でユネスコへの提出をしていくということになっております。

今、その改定作業を我々が進めている所でございます。

それから平成32年1月頃に文化庁として正式な推薦を決めて、最終的には外務省の所管になります世界遺産条約関係省庁連絡会議で調整が図られ、最終的には閣議了解を経て国内推薦が決まるということになります。

この段階で先ほど言いましたように、一番下にコメ印で書いております奄美大島、徳之島および西表島といった自然遺産の候補が、この前に推薦書をあげてくると、どちらか一方を国が決定することになります。その後、推薦書の正式版を国としてユネスコの方に提出していきますと、来年ですが、諮問機関である国際記念物遺産会議、いわゆるイコモスと呼ばれる審議機関がございまして、こちらの方たちがそれぞれ外国の方、日本の方といらっしゃいますけれども、現地に入りまして、縄文遺跡群ですと17の構成遺産がありますので、全部順次回りまして、どういった状況か調査して歩くと、そういったことになっております。

その際の調査のポイントと申しますか、どういうことが審議されるかというのは、その時のメンバーによりましてだいぶ内容が変わってくると聞いております。

縄文遺跡群は埋蔵文化財なんですけれども、審議の方というのはイコモスの方で、埋蔵文化財の専門の方というわけではありません。

当然環境の問題ですとか、色々、様々な分野の専門家と聞いておりますので、それらに則した質問がなされ、それにどう回答していくか、といったことが審議の大きなポイントになってくると聞いております。

その回答いかんによっては、最終的にはそのイコモスの中間報告というのが、平成32年の1月頃に行われるんですが、その段階で、このまま登録しても大丈夫でしょうというマルをいただけるのか、もう少し調査が必要ですか、もうちょっと課題が多いので整理しましょうということで、三角印が2種類くらいあるだろうと聞いております。それとも全くだめなバツということで、×がつくともうこのあと再度上げても世界遺産登録になることはありませんので、国としますと三角印がつきそうだということになると、一旦取り下げるといったことが何回か続いているといった状況でございます。

またそれら課題を整理して、推薦書を上げ直すといったようなことが最近多くなっております。

一応それらがすべてクリアされて、最短でいきますと平成32年、2020年の7月に正式登録といったことになります。ちょうどオリンピックの年で、外国の方も日本にたくさん来ていただく時期でござ

いますので、それらを目指して今、取組みを進めているといった状況でございます。

では、なぜ、「縄文遺跡群を世界遺産に」といった流れが起きたのか、というのを次の資料の3枚にまとめてございます。

時系列で書いておりますので、かいつまんでお話しします。

平成14年度、北海道北東北自治サミットというのが毎年行われておりますけれども、そちらで、元北海道知事から「北の縄文回廊づくり」というのが提起されまして、これがきっかけと言われております。

文化庁の世界遺産候補の公募をします、それにその応募をしてはどうか、ということで、世界遺産の登録に係る運動が始まったということでございます。

右側の方には、その当時の函館での動きがありますけれども、平成19年になりますと中空土偶が国宝に指定され、その後の平成20年には、縄文遺跡群が「ユネスコ世界文化遺産暫定一覧表」に記載され、その後、毎年ですね、準備を進めながら平成25年、2枚目になりますけれども、ここではじめて原案というのを文化庁に出しています。

この時、最初ですので当然採択されるとは思っておりませんが、課題がどういうものかというものを整理していくために出していく、ということです。その次の年になってから気持ち的には本気を出しているんですが、ようやく今年度6年目にして国内推薦候補を得られたといった状況でございます。

過去から、結構古くから世界遺産にということで、運動を、青森県を中心とした推進本部で行っていたんですけれども、それぞれの地域の住民の皆様に浸透しているとは言えない状況の中で進んでおりました。

最近、縄文遺跡に関しても一般の方、地元の方以外でも結構興味を持つ方が増えてまいりましたけれども、まだまだ浸透度合いというのは低いというふうに我々も思っておりまして、今回は先ほども少しお話ししましたけれども、世界遺産の国内推薦候補になったということで、報道もかなりされております。それらの機会を捉えるためにも、南茅部地域のアクセスの問題もありましたので、期間限定ですけれども、シャトルバスを走らせ、遺跡も職員が解説するような形でご案内しているといったことで、バスもそれほど莫大に利用されているわけではないんですが、それなりに多い時ですと一日に50人利用されており、遺跡見学会も50人くらいの方がいらっしゃっております。

やはり解説付きでご覧いただきますと、「そうだったんだ」と、「こんな良いところがあったんだね」というような再認識をしていただくような機会になってございますので、また9月いっぱい平日を含めてやっておりますので、みなさんも何か機会がございましたら、南茅部の方で遺跡に直接入って、その場の空気感というものを、少し違うもの

蛭子井文化財  
課長

もあると思いますので、そういうのを感じていただいて、縄文に興味を持っていただいて、縄文の裾野を広げていって、ゆくゆくはぜひファンになっていただいて、遺跡なりセンターなりという所で縄文文化を知っていただくというのが良いのかなと思って、取組みを進めてございます。

あとお手元の方にリーフレットがございます。世界遺産の登録を目指している北東北の17の遺産について全て解説が載っております。

ちょっとしたページですので、詳しくは記載されておりませんが、およそ一万年前から続いてきた縄文遺跡に関して、その時代時代のポイントがあるんですけれども、それらに則した資産がそれぞれ17あります。

それから、縄文文化交流センターのリーフレット、それと縄文文化のリーフレット、それから世界遺産のリーフレットもありますので、それを参考にして見ていただいて、ぜひ現地を訪れていただけたらと思います。

今日は各団体さん、それから所属されている所で、こういったことができるのか、といったご協議をされる、というふうに伺っておりますので、ぜひとも色々なご意見をいただければと思います。

以上でございます。

滝澤委員長

ありがとうございました。

6年かけてというお話でしたけれども、やはり市民の認知度と、先ほどからお話しにも出てましたが、その辺を広めていくというのが、それぞれの団体や社会教育委員の会議を通して、ぜひ、できればいいなというご提案じゃないかと思います。

事前にお知らせしていたわけではないので、個人的な意見でも構わないと思うんですけれども、みなさんいかがでしょうか。

函館市として盛り上げていくということを考えた時に、どんなことから気を付けたら良いのかなとか、ざっくばらんにせっかくの機会ですので、お話をしたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

いかがでしょうか。

石崎委員

みなさんに現場を見ていただくというのが一番だと思いますので、このシャトルバスというのはとても良いかなと思いますけれども、シャトルバスがあるということを知ってる方がどのくらいいらっしゃる

石崎委員

のかなと思ったりもしました。

前に私，社会学級に入っていたんですけれども，年に一回研修がありまして，よく研修した時に，最初の段階では小屋みたいなものしかなくて，穴を掘ったような遺跡だった所から，今は美術館というか博物館のような立派な施設ですが，そういうことを知らない方がたくさんいらっしゃるかと思うので，シャトルバスがあるのなら，そのことももっとPRした方が良いんじゃないかなと思います。

滝澤委員長

今日ご欠席の東部地区の川口さんは，情報はせっかくあるんだけど距離的に遠くて人が来ないんだっていうお話をされてまして，やはりアクセスの問題っていうのは結構大きい問題だというふうに思います。

期間限定ということだったけれども，例えばある程度，冬はなかなか難しいと思うんですけどね。通年で週一回とか，そういうふうにシャトルバスがあれば，来る方も増えるかなという感じですよ。

すごく基本的な質問からさせていただきますけれども，ここにご参加のみなさん，中空土偶とか大船遺跡とか実際に行ってるじゃないですか。別に決を取るわけではなくて，どうなのかなと思ってお聞きしました。やはり実際に見ることが大事かなと思います。

つい先日ですね，ニュースで街頭インタビューしていました。「世界遺産の候補になったんですけれども」というような，函館市民にインタビューしているんですが，「そういうのがあるんですね」，みたいな所があって，やはり裾野を広げるということが必要かなと思います。もちろん専門的な部分や世界遺産までの行政的な手続きなどは，教育委員会が一生懸命やってくれているのですが，やはり，個がそれぞれ，もうちょっとできることってないのかなと思っており，こういう場でも意見を出し合えたら良いのかなと思います。社会教育といっても，年齢の幅が広く，社会教育の最初の入り口は学校教育かな，と思うんですけれども，長谷川委員，この辺についていかがですか。

長谷川委員

はい。小学校長会から出席させていただいております長谷川でございます。

本日，午前中に校長会議がございまして，教育委員会の方からも通達があり，その中で，遺跡等に関するパンフレットを紹介され，みなさんにもということで，既に出来上がっている小学生用と中学生用のパンフレットをいただきました。

小学生の方を見ますと，質疑応答ということで，子どもたちに「大船遺跡・垣の島遺跡があるのは函館市の何地域という所でしょう」というような問いがあつて，その答えが裏の方にあり，小学生向けに地図も入っていて，ルビもちゃんとふつてあり，説明も書かれている。今の段階から，子どもたちに興味関心を植えつけていくと，地域に対

長谷川委員

する理解を深めていける、こういうことをまず、学校教育としてやるべきなのだと思います。それが結局、何年か経った後に、社会教育の窓口、切り口となっていくのではないかという期待を持っており、私たちがこれを各学校でどのように活用していくかということが重要なことだと思っております。

具体的に言いますと、社会科の時間、3・4年生であれば地域学習、6年生であれば歴史の学習、それから1年生や2年生だと、ちょっと難しい中身ですので、お話しとしてですね、学級担任が子供たちに読んで聞かせるとか、そのような使い方をしていくということになると思います。

あと、これについては今後、我々の創意工夫にかかっているんですけども、今行われていることを振り返り、学校行事の遠足とか、宿泊研修など、函館の場合、小学生の修学旅行はほとんど三内丸山遺跡で、二十年以上そちらに行っております。

ちょっと足元に目を向け、地元にもっと良いものがあるという認識を持つことも必要だと思います。

それから中学校では、宿泊研修は大沼等の自然体験をしていますが、沼でボートを漕いだりとか色々あるようですけど、地理的にも南茅部地区まで行くことが可能だと思うので、そのような取組み。それから、私が思いついたことは、例えばロゴマーク。先ほどのリーフレットにもございました。このロゴマークを色々な所に出していきたいなど。例えば学校でいえば「学校だより」のわきに貼り付けていくことで、保護者地域の皆様の目に触れることも多くなると思います。徐々に色々な分野で、学校でできることを盛り上げていければ良いという期待を持っています。

今、課長さんがつけているバッジなども、きっとその一つだろうと思うのですが、そういうのを例えば学校に貼ってみるとか、我々教職員も付けてみるとか、そんなことで、地域全体で盛り上げていくという、これから色々、工夫はできるかなと思っております。

以上です。

滝澤委員長

ありがとうございました。

学校では、授業とか行事とかで、小さい時から認知度を上げていく取組みが可能かなというお話でした。

いかがでしょうか。

佐藤委員

はじめてこの会議に参加しました。先ほど、大変すばらしい話がありましたので、私も町会長の立場で、お話ししたいと思います。実は他の町会も同じだと思うんですけど、各町会には一年に一回、研修会というものがあるわけですが、七飯町に行ったりとか遠く大沼に行ったりとか、色々行っておりますが、ごく身近にこのようなものがあるの

佐藤委員

になかなか向こうに行けない。それには二つのネックがあります。

一つは、先ほども話されておりましたが、バスの問題。これは町会でお金を出していますが、福祉協議会からバスを借りて実施している。もちろん運転手さんもお願ひしています。その確保ができれば、もっとPRできるのではないかな、と思います。

それからもう一つは、参加する人は高齢なので、バスに乗っている時間は、一時間が限度って言うんです。

ですから途中で我々はトイレタイム含めて休むわけですがけれども、そういうようなコースがありますよってというのが、もう少し我々に情報として入ってくれば、積極的に取り上げられるのではないかなと思います。

来年度の予算が8月ですけれども、もう検討している段階になっているわけです。

そうすると、今からこのバスで大体このくらいのお金がかかるとか、途中で寄って食事もできます、とか情報があれば、さらにこれ突っ込んで話し合えるのではないかなと。

私もかなり昔にここを見に行ったことがありますけれども、素晴らしいんですね。

私は空港団地町会なんですけれども、多くの方は知らないんです。ですから残念なんですね。

何かそういう面で良い工夫があれば、情報が入れば、これから検討できるのでないかと、今、色々なお話を聞いて感じました。

よろしくお願ひします。

滝澤委員長

ありがとうございます。

やはりアクセスの問題と、それから遺跡だけじゃなくて、それに絡んで観光振興とか、本当は社会教育の分野ではないかもしれないけれども、そういう所とうまくタイアップするとか、そういうような取組みがあったらというお話だったと思います。

あといかがでしょうか。

滝澤委員長

池田委員は青年センターのサークルで、そちらの方に行かれたりとか、縄文のキャンペーン等を行うとか、そういうことはあるんですか。

池田委員

出番が正直ないんですけれども、私個人の話にはなってしまうんですけど、長谷川先生のお話にもありましたが、学校を巻き込むような形が一番理想なのかなと思ってまして。

なかなか遠いので、行こうかなという気持ちになかなかならないのですが、私は家族で行ってきました。失礼なんですけれども、正直あんまり興味もあつたというわけではないまま行つたんですが、中空土偶にはすごい感動しまして、展示のされ方であるとか、ライトアップ

池田委員 の仕方とか、小さいかと思ったら圧倒されて、百聞は一見に如かずだな、ということがありましたので、やはり、学校の社会科、教育見学ですとか、半ば強制的に一度行って見てみるということ、学校を巻き込んで進めていただきたいなというところでもあります。

滝澤委員長 ありがとうございます。

私、北中学校長なんですけれども、2年生で一泊二日の宿泊研修があり、大体のコースは、最初に江差に行き自主研修して、その帰りに大沼に行くというものですが、今年は縄文を見に南茅部をまわって、実際に見て帰ってくるということをしました。池田委員のご意見のように、その辺も意識してやっていかなきゃいけないと思っております。

なかなか遺跡だと興味のある方とない方がはっきりとしてしまうんですけども、やはり中空土偶はビジュアル的に大きいので、非常にインパクトがあって、ゆるキャラとかでPRしていただいたりとか。

文団協の佐々木委員とか、例えば縄文の色々な文様だとか音楽だとか食文化だとか、そういうのを団体さんの中で取り上げられている所とかはございますか。

佐々木委員 ありますね。先生方は行ってきたとおっしゃっていましたが、運転できれば運転するんですけれども、下手なので怖くて行けないんです。ツアーなどを企画していただいて募集して、本当に低料金で、バス賃ぐらいで行けるようなツアーを組めば、たぶん各団体に申込み用紙やチラシを配るなど積極的に行動すれば、見に行くっていう気持ちになるのではないのでしょうか。

佐々木委員 市役所の方で、そういうツアーを組んでくださればなお良いんですが、文団協も会員を募集しまして、行くようにしたいと思います。

以上です。

滝澤委員長 ありがとうございます。

まず、足を運んでもらう所からですね。

滝澤委員長 ただ、市役所だけではなく、色々な団体も検討していく必要があるかもしれませんね。

佐藤委員 今の話で思い出したんですけれども、他の地域では社会教育委員の研修会というのがありますよね。それで色々な所に行って、委員が一泊二日で行く時もあるんですけれども、研修に行くんですね。そうすると、社会教育委員の連携も取れますし、全く今まで見たことのない聞いたこともないことを学ぶことができますよね。

函館市がどのようにしてるか分かりませんが、他の地域では、社会教育委員の研修があって、力を入れていると聞いております。

私が遺跡を見たのはかなり昔ですから、遺跡の見学を組み入れた研

佐藤委員

修を行い、帰って来てから町会の人にも話をすれば、インパクトがあるのではないかなと思いました。そういう機会を作ってもらえればもっと良いのかなということをおもいました。

滝澤委員長

そうですね。「隗より始めよ」ということで、私たちが研修をするというご意見ですね。ありがとうございました。

時間も押してまいりましたが、あといかがでしょうか。  
よろしいですか。

急な提案というかお話しだったんですけれども、貴重なご意見をたくさんありがとうございました。

今日出た話も、最もですね。それぞれ私たちが小さいことでも、できることから取り組んでいくことが大事だなと思います。

本日のご意見につきましては、事務局の方とも情報共有しながら進めれることは進める、それから、今日せっかくこういう意見が出ましたので、各委員には帰ってからそれぞれの団体に、「今日こういう話があったんだけど何かないか」、というふりかたでも構いませんので、各団体で情報共有を進めていただければなというふうに思います。  
どうぞよろしくお願ひいたします。

それから事務局から他に何かございますでしょうか。

阿部生涯学習  
文化課長

次の社会教育委員の会議の開催につきましては、日程については未定ではございますが、内容については、本日のように何か一つテーマを決めて、委員の皆様や、所属する団体等で社会教育を推進する活動について、社会教育委員の皆様がアイデアや意見を交換する場にしたと考えております。

テーマが決まりましたら、できるだけ早くお知らせしたいと思っておりますので、活発な意見交換ができるよう準備していただければと思っております。

テーマについては、正副委員長に一任していただければ、事務局と正副委員長で検討して参りますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

滝澤委員長

ありがとうございました。

色々と教育委員会にご意見を申し上げるんですけれども、私たちができることは何かということをお考えられる機会にしたいと、ぜひ委員同士でお知り合いになって、特に今、学校はコミュニティスクールも始まっておりますので、そういう部分でも連携を深めて行きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

滝澤委員長

以上で、本日の会議終了ということになりますが、佐藤次長の挨拶がまだでしたので、一言、どうぞよろしくお願いいたします。

佐藤生涯学習  
部次長

(次長挨拶)

円山生涯学習  
文化課主査

これを持ちまして、第1回社会教育委員の会議を終了したいと思います。

皆様、お疲れ様でした。

以上、平成30年度第1回函館市社会教育委員の会議の会議録とする。

委員長 滝澤 智子